

書

評

一楽信雄 著

経営行動システム論

朝倉書店 B5判 150頁 1984年5月発行 2800円

近年、いわゆる社会システムの重要性が増し、企業にも社会の中における整合性ある役割が求められている。いずれも人間が介在するため、1つの入力作用に対して、いくつかの異なった結果が得られる自律的行動システムである。本書は、システム論の立場から、社会的集団に共通な特性を抽出して、この種のシステムの概念を形成し、システムの構想、実現、運用、管理、評価、改善までの幅広い過程を対象に、その一般的方法をまとめたものである。

全体は8章で構成され、1,2章のシステム開発論、システム概念が序論にあたる。本論は、3-5章の自律的行動システムの概念、システム管理、システム評価よりなり、時間とともにニーズが変り、かつ関与者が多いこの種システムに対しては、従来のシステム設計では、制作と実働の過程における自律機能の仕様および実働以後の問題についての考察が不十分であるとして、調整および評価機能を重視する。システムが達

成すべき目標状態と現状の差異の解消を目的とする調整機能については、システム論的記述を行なっている。評価機能の側面からは、評価対象としてのシステム、評価を行なう主体の両面から考察したあと、評価システムそのものについて、事前、同時、事後評価および評価のための情報のあり方について述べる。その具体的応用例として、6章で製造、販売、流通、廃棄を含む生産システムを社会、自然系のなかで評価する場合について評価項目群を示す。最後の7,8章は、情報システム、マネジメント能力開発への適用を略述する。

本書の重点は、システム評価機能についてのシステム論的体系とその具体例にある。調整機能とともに、従来のシステム論で弱くなりがちな面について、重要な課題を提起していると考える。

(山下達哉 日本アイ・ビー・エム)

報文集T-76-1

頒価 会員4,000円

オペレーションズ・リサーチのためのデータとプログラムに関する研究報告

この報告書は、ORの実践的教育に役立たせるためデータを収集し、その利用例を説明したものです。

ORの精神を体得するには、生のデータを収集して解析する作業をしてみるものがきわめて重要です。それにもかかわらず、現状では手法の研究、体系化が進んでいるのにくらべて、教育に利用できる形での生のデータは非常に乏しいといわざるを得ません。

50年4月から51年3月にかけて、当学会の研究部会を中心に組織したORDP委員会が、(財)情報処理研修センターの委託を受けて、各種企業、団体、研究教育機関の関係者の方々の協力のもとで、いろいろな現実のデータを収集し、データライブラリを作成するとともに、その扱い方を研究し、ORの実践的教育に役立つ材料を用意することを目的とする活動を行ないました。本報告書はその成果をまとめたものです。

当然のことですが、その磁気テープに収録されたデータライブラリとその解説書も別途用意されています。

ので、必要な方に提供できます。

報告書は、事例編とデータ篇からなっています。事例編では、14の事例が紹介されています。データ編では、諸官庁等から発表されている統計のうち、磁気テープのデータライブラリに収録した基礎的で興味深いものの紹介となっています。

主要目次

事例編：産業連関表 国連統計 財務シミュレーションモデル 鉄道路線の乗客数の推定 目標計画法による目標分析 電子計算機実動状況 時系列データの解析 メッシュデータとその利用について 建設工事における重機使用計画 鉄道における貨物の輸送 生活構造調査データ 職業移動の分析 財務諸表分析 計算センターの稼働統計

データ編：人口 労働 農業 水産業 製造業 産業活動関係指数 物資需給 物価賃金 家計 国民経済計算 教育、科学、文化 公務員